

令和4年度 小平市立鈴木小学校 学校評価報告書

学校教育目標よく考え やさしく 元気な 鈴木の子 （〇よく考える子・・・基礎・基本の習得とそれを活用する力を身に付け、根拠を明確に自分の考えをもち、判断し、行動できる子ども 〇やさしい子・・・自他の生命を尊重し、自分も友達も大切にできる子ども 〇元気な子・・・自己有用感を高め、心身ともに健康で粘り強くやり抜く子ども）

目指す学校像(ビジョン)

【目指す学校像】 笑顔あふれる学校 共に成長する学校 郷土を愛する学校

【目指す児童・生徒像】 主体的に考え判断し自分で進める力・様々な考えを大切にしながらみんなでつくる力・他者への感謝の気持ちをもってみんなの笑顔をもたらす力がある児童

【目指す教師像】 自己の使命と責任を自覚して学校を開き、教師同士が学び合い、協力し合って職務に励み、子どもと共に成長する教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

成果:コロナ禍の制約が多い中でも児童発案で各学年が今までにないプロジェクトを実施し、自らつくる楽しさや役に立つ喜びを味わった。教員も連携や結束力が高まった。課題:ICT機器導入やコロナ感染者対応・行事の感染対策、感染対策メンタルの支援が必要な児童保護者対応が増加し、在校時間が増えている。

|        | 具体的方策                                                                                     | 第1回評価 |      | 課題と対策                                                                                                                            | 第2回評価 |      | 学校関係者評価                                                                                                                                         | 課題と次年度以降の対策                                                                                |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
|        |                                                                                           | 努力目標  | 成果目標 |                                                                                                                                  | 努力目標  | 成果目標 |                                                                                                                                                 |                                                                                            |
| 学力向上   | ・鈴木タイムで仮名や漢字の読み書きを定着させる。<br>・ベーシックタイムで・算数の基礎を身に付けさせる。<br>・10分×学年の家庭学習の定着を図る。              | 3     | 3    | 指導者は鈴木タイムが基礎基本を養う時間として意識し指導にあたり、一定程度の定着を認識している。課題は、家庭学習である。個人の実施時間や内容・意欲及び習慣化に差があり。明確な成果が不明である。対策として教室掲示や便りでの啓発をすすめる。            | 3     | 4    | ・新型コロナ感染者の状況であり参観できなかったことは残念であった。感染状況によるが、すこしでも多く参観させていただきたい。<br>・授業参観をすると、どの教室も落ち着いて学習が進められていた。<br>・学習者用端末の活用が多く、よいと思った。<br>・発表会の行事は続けていただきたい。 | ・鈴木タイムとベーシックタイムでは、国語と算数の基礎基本の学びができて、習慣化している。<br>・学習者用端末の活用方法を広げて、家庭学習・自主学習の活性化をしていく。       |
|        | ・個で考える時間と学び合う時間を確保し、多様な表現方法で考えをまとめ、それぞれの考えを活かし深めさせる。<br>・朝読書と読書旬間を通して本に親しむ習慣を定着させる。       | 3     | 4    | 授業では、個と小集団等の学び合いの場を分けて進めている。朝読書や学期1回の読書旬間を通して本に親しむ習慣ができてきた。2学期以降も学校全体で取り組んでいく。                                                   | 4     | 4    | ・個で考え、学び合いをして再考する授業のスタイルがどの教科でも学校全体定着しつつある。今後も継続していく。<br>・学習者用端末の活用が増え、本で調べることが減ってきている。多くのジャンルの本にふれられるよう図書館協力員とも連携して教科指導計画も吟味していく。              |                                                                                            |
|        | ・積極的に授業公開を行い、校内・外部の教員と研鑽し、校内に還元する。                                                        | 3     | 3    | 主体的な授業公開や研修後の積極的な還元は少ないと感じている。今年度新設した経営会議で教科や学年での公開をや研修後の還元ミニ研修も計画を立て実行していく。                                                     | 3     | 4    | ・教科や学年間・異学年間での授業公開や交換の実施率をあげてきた。引き続き、次年度も継続していく。                                                                                                |                                                                                            |
| 健全育成   | ・いつでも誰にでも自分から先に挨拶をできるようにさせる。<br>・「いいねさん」カードの取組を推進し良さを認め合う活動を実践する。                         | 3     | 3    | 児童自身の挨拶は、9割が肯定的回答だが、外部からの来校者に対する挨拶は活発とはいえない。友達の良さを見つける活動は、9割肯定的回答で定着している。対策は、全教職員が挨拶を率先し、励行していく。あいさつ運動も年間の予定通り今後も取り組む。           | 3     | 3    | ・あいさつ運動やあいさつの日常化、会釈も継続していただきたい。そして、あいさつは、より活発になってほしい。                                                                                           | ・あいさつ運動や教室でのあいさつの他に、いつでもだれにでもあいさつができるよう学校全体で取り組んでいく。                                       |
|        | ・いじめに関する授業を年3回全学級で実施する。<br>・「人との関わり」を重点とし、思いやり、信頼や相互理解の意識を高める学習を実施する。                     | 3     | 3    | いじめに関する授業実施は6割強の肯定的回答。「人との関わり」に関する授業は8割肯定的回答。対策は、特別の教科道徳の年間指導計画を参照して「いじめ」に関する教材と認識し、確かな指導観をもって授業するよう道徳部から発信する。                   | 3     | 4    | ・道徳教育の重点を「人との関わり」としてすすめてきた。次年度も道徳教育全体計画を教職員が念頭におき、地域・保護者・関係諸機関と連携を図りながら教育を遂行していく。<br>・計画通り次年度も継続実施していく。                                         |                                                                                            |
|        | ・たてわり班活動や学級・学年がよりよくなる活動を児童発案で考えて実践する力を育成する。                                               | 3     | 3    | 児童発案で学級をよりよくする活動が継承されている。たてわり班活動も8割が肯定的な回答。2学期以降も計画的に取り組んでいく。                                                                    | 3     | 4    | ・児童発案で高学年が計画的に実行し、児童の活動に対する肯定的な回答を得た。これらのよさを今後も継承していくよう丁寧に引継ぎをしていく。                                                                             |                                                                                            |
| 体力向上   | ・休み時間の外遊びを推奨する。<br>・なわとびやマラソン 旬間を通して継続的に体力向上を推進する。<br>・体育集会等で多様な運動にふれ運動する良さを味わわせる。        | 3     | 3    | 8割の肯定的回答の一方で否定的な回答が1割。コロナ禍で制約があり、運動ができないことも原因の一つと考える。また、感染が怖く、外に出ようとしない児童や心が不安定で敏感になっている児童が増えた。対策は、児童発案の遊びや委員会主導の集会を計画通り取り組んでいく。 | 3     | 4    | ・オリパラ教育の実践内容をより多くの方に伝えるようにしていただきたい。                                                                                                             | ・感染対策の緩和から年度後半外遊びをする児童が増えた。体育関連の集会や旬間は、児童が外で遊ぶきっかけとなった。今後も児童発案を軸に継続していく。                   |
|        | ・全校朝会や学級指導等でオリ・パラにふれ豊かな国際感覚と障がい者理解を育成する。<br>・理念にふれ自他を尊重する心を育成する。<br>・多様な競技を学び運動の良さを実感させる。 | 2     | 2    | 全校朝会の校長講話で話題に上げ、掲示もしたことより、オリパラ学習をしていない学年が知る機会となったが、6割の肯定的な回答にとどまった。2学期以降の総合的な学習・道徳・集会や運動クラブで多様な競技や遊びの体験を実施していく。                  | 3     | 3    | ・オリパラ教育は、通年意図的計画的に校長講話で興味関心を高めた。また、総合的な学習を計画通り実行し、下学年に発表をした。さらに全学級特別支援学級教員が通級理解授業を実施し、障害者理解をすすめていく。                                             |                                                                                            |
| 郷土愛の育成 | ・各学年・専科等で学習の様子を毎月HPで紹介する。<br>・地域人材や関係機関との連携した学習を全学年で実施する。                                 | 3     | 1    | HP学校ブログには偏りがある。学年で毎週1回以上アップするよう担当と連携をしていく。地域人材や関係機関の活用については、引き続き活動の情報発信をしていく。                                                    | 3     | 3    | ・ボランティア要望や実施が以前より増えた。今年度の内容を異動等で人が変わろうとも次年度の引き継いでいただきたい。                                                                                        | ・保護者や地域に方のボランティアを募り、地域の教材や人材をより活用していく。<br>・教育活動を多くの方に知っていただくためにコミュニティースクールの立ち上げの準備をすすめていく。 |
| 業務改善   | ・会議に効率化、ICTを活用してペーパーレスで情報共有、行事や校務の精選をすすめる。                                                | 3     | 4    | 9割が肯定的な回答。今後もICT活用の研修と情報共有、年間の指導計画の実施と実績をまとめ2学期以降も活用していく。また、働き方改革で検討し改善できるものは即実行をしていく。                                           | 3     | 4    | ・先生方の関係がうまくいっているのだと思う。引き続き居心地がよい雰囲気の学校であってほしい。                                                                                                  | ・今後もICTを活用した研修を実施していく。<br>・活用範囲を広げ、より効率的に会議や情報収集等をすすめていく。                                  |